

広報もくれん 1982 10



情報キャッチボール

編集と発行 静岡県木材協同組合連合会

静岡市道手町9番6号(県庁西館9階)

☎0542-52-3168(代)

製材JASシリーズ

農林水産省横浜農林規格検査所静岡支所 農林産課長 奥石 一 司



広報「もくれん」が復刊・発行されるのを機に、紙面の一部を掲載し、「木材とその周辺」について記述する機会を与えて頂きましたので、思いつくままにシリーズで掲載させて頂くこととしました。ご一読頂ければ幸甚に思います。

「木の素晴らしさ」

二年前の十月昭和の大修理が完成し、盛大な落慶法要が行われた東大寺の大仏殿は、現存する世界最大の木造建築で、天平の姿を今にとどめています。

現在の大仏殿は、江戸時代の一七〇七年に再建されたもので、八世紀のはじめ聖武天皇が発願建立してから二度の戦火によって焼失したとされています。

私は勤務の関係で、たまたま奈良に住むことができたので、暇さえあれば周辺の神社仏閣を巡ることにしていました。

巡るといっても神や仏に詣でるのではなく、商売柄どんな材料が、どんな風に使われているのかでした。

大仏殿にしても、特大の瓦十一万枚(一五〇〇トン)を支える構造材は総て檜で、大屋根を支える心柱には、みかえ割りの材料を鉄線と絡めた集成材のはしりとも思われるものを見かけます。

東大寺の西方約二軒「ゆく秋の大和の国の薬師寺の塔のうなるひとひらの雲」と佐々木信綱が詠んだ優美な東塔は私の好きな塔の一つです。

法隆寺の宮大工西岡常一氏によれば、塔の柱は立木の時と同じように節の多い面を南に向け「木の心」を組んであるという話しには驚かされます。

昨年西塔が再建され、経三尺の心柱など二五〇〇石の台湾檜が使われ塔の総重量六〇〇トンを支えることとす。

塔を再建した高田好胤管長の書に「心」というのがありま

すが、これによりますと、現在の建築手法なら、これだけの材料で同じ塔が四つできるほどふんだんに材料が使われているということが書かれています。

塔は信仰の対象であり、高くその姿が荘厳でなければならぬというところからコストなど問題外ということでしょう。

俗に檜千年、杉樺六百年、松四百年といわれ、木材は伐採後二百年、三百年位に強度がヒックになるといふことを聞いたことがあります。

現存する世界最古の木造建築物である法隆寺の一千三百年の歴史は、優れた材料と構法とが相俟って、今なお冷徹な伽藍に往時をしのぶことのできるのも、木造建築だから

ではないでしょうか。

「法隆寺を支える木」という書物に前述の西岡常一氏の解体修理の体験が記されていますが、一千三百年の歳月と瓦の重みで、や、垂れていた檜の垂木がピンと元にもどったとあるのは、またまた驚かされます。

このような「日本の美」を支えて来た木材も、ただ木であれはよいということではなく要求品質と合致したものが供給されたことにちがひありません。

わが国における木材規格の歴史は、大正七・八年頃から規格のはっきりした木材の輸入に刺激されたことや、関東大震災後の復旧資材の大量需要に誘引され、大正十五年商工省告示第三十号として、「日本標準規格」が制定されたのが始まりです。いつの時代もよいものは、よい材料からということに変わりはありません。



街頭の赤い羽根共同募金。秋本番、組合員のみならずにはご多忙のことと存じます。▼さて「広報もくれん」復刊第一号をお届けします。テレビラジオのCM放送開始に際し、トップに広報宣伝事業を特集しました。構成千六百社の業態は、産地と消費地、メーカーと流通業、立場により意見実にさまざま。▼PRの効果期待するには、まず長期間継続すること。そして早急の「受け皿」整備。これが多数意見。ともあれ、各社、各木協でも関連業者、業界の協力を得て、PRを取り込み、活かす方法を詰めてゆきたいものです。▼十月・十一月は各木協でも催し物が盛りだくさん。▼十月・十一月は各社、単協、県木連を結ぶホットライン「広報もくれん」へ、意見、情報をしどしお寄せください。(M)

編集室

「効率的なPRに向けて」

県下木材業者の英知をお寄せ下さい

木材広報宣伝専門小委員会

委員長 高橋孝三



住宅着工件数の減少と、木造比率の低下により、未曾有の不況に喘ぐ本県業界が需要回復を目指し県木連企画運営委員会(委員長小沢雄太郎氏)の立案の下に、一企業二、〇〇〇円の協力により、総額二、〇〇〇万円の予算でPR事業に踏み切ったのは去る八月でした。さいわい各業者のご賛同を得て予算の見通しもつき、会長より七名の委員が委嘱され、九月三日「木材広報宣伝専門小委員会」が発足し、不肖私が委員長を拝命しました。

B、ラジオ放送事業

C、新聞掲載事業

D、木の日統一事業

1、ポスター

2、掲載事業

3、フェスタ

4、静岡木工

5、教室事業

6、テレビス

7、ポット放

8、映と新聞

9、広告掲載

(実施済)

10、県住宅展

11、参加事業

E、啓蒙普及宣伝事業

県木連広報発行その他

木材広報宣伝専門小委員会名簿

役職	氏名	所属組合
委員長	高橋 孝三	島田木協
委員	小栗 頭	浜松木協
"	内山 英夫	天竜川木連
"	影山 弥太郎	静岡岡木協
"	川口 恭弘	清水港木協
"	杉山 修一	沼津木協
"	菊間 明夫	田方木連

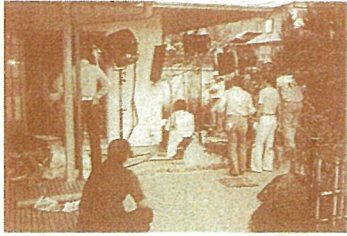
57年度PR

「種まきは始まった、

10月4日 木材広報宣伝

刈り取り体制の整備を、

事業本格始動!!



9月28日テレビCMフィルム撮影現場より

テレビ・ラジオCM日程

放送期間 57年10月4日～58年3月末日

- 1 テレビ放映
 - (1) 静岡放送テレビ(SBS)
 - 18時00分～18時30分
 - (SBSテレビ夕刊の番組提供)
 - 毎週月・水曜日18時20分前後に30秒スポットCM各1回
 - (2) 静岡第一テレビ(SDT)
 - 20時54分～21時00分
 - (NNNニューススポットの番組提供)
 - 毎週火曜日20時56分30秒～20時57分30秒の間に30秒スポットCM1回
 - (3) 静岡第一テレビ(SDT)
 - 11時30分～11時40分
 - (NNN昼のニュース)
 - 毎週月～金曜日11時37分30秒～11時38分30秒の間に15秒スポットCM各1回
- 2 ラジオ放送
 - 静岡放送ラジオ(SBS)
 - 15時00分～15時05分
 - (ニュースデスクの番組提供)
 - 毎週月・水・金曜日15時04分～15時05分の間に20秒スポットCM1回

十月八日は「木の日」、ご存じですか。日本木青連が五十二年に提言し、はや六年目、昨年からは全国統一行動としてスタート。他業界でも肉の日(毎月二十九日)、ムシ商の日(六月四日)と各々の業界を一般消費者に意識付けようと懸命に努力しています。本年度は全国統一キャンペーンの一環として、県内国鉄駅等への「木の日」PRポスター掲示事業を十月二日より八日の間、東海道線全三十二駅をはじめ、御殿場、身延、二

十月八日は「木の日」

県内国鉄駅にキャンペーンポスター掲示

「PRってなんだ?」
俗にPRという、即テレビ、ラジオのCMとか、新聞広告、etc.とお考えの方が多くあります。しかし、これらはあくまでもPR活動の一つである宣伝行動にすぎず、PRそのものではありません。PRとは、パブリック・リレーションズの略。直訳すれば、企業と世間との橋渡しのようなものです。お金もかかりませんが、すぐ売上げに結びつくようなものではありません。しかし、時間の経過とともに大きな効果を発揮してきます。「ボクシングに例えると、地味ながら、くり返し打ち込むボディブローは、ラウンドが進むにつれて、ジワジワと効いてくる」。関係行政方面に陳情を行うことや、各種イベントを開催することなど、テレビCMに劣らない立派なPR活動なのです。(I)

十月八日は「木の日」、ご存じですか。日本木青連が五十二年に提言し、はや六年目、昨年からは全国統一行動としてスタート。他業界でも肉の日(毎月二十九日)、ムシ商の日(六月四日)と各々の業界を一般消費者に意識付けようと懸命に努力しています。本年度は全国統一キャンペーンの一環として、県内国鉄駅等への「木の日」PRポスター掲示事業を十月二日より八日の間、東海道線全三十二駅をはじめ、御殿場、身延、二

は地震等の災害に対して強い建築資材であることを重点にPRすべきであるという委員の意見が絶えず貫かれたと言うことができそうです。

前述のように広報宣伝の事業は今日実施し、明日に効果が現われるものではありません。県内業者の中には建築資材としての木材のPRの必要性を必ずしも直接には感じない方もあろうかと思えます。しかし木材の消費促進こそ現在の業界不況脱却の最大の課題であるとするならば、木材消費の内でも大きなウェイトを持つ、建築資材としての、木材のPRをまず取り上げることも止むを得ないと思えます。永い歴史と伝統をもつ私達木材製材業界の浮沈を問われている昨今、業界として打つべき手を打ちながら不況克服に邁進したいと思えます。

◆ 今後の事業は決して一委員会の努力で



効果的なPR手法をと専門小委員会

として、木材のPRをまず取り上げることも止むを得ないと思えます。永い歴史と伝統をもつ私達木材製材業界の浮沈を問われている昨今、業界として打つべき手を打ちながら不況克服に邁進したいと思えます。

◆ 今後の事業は決して一委員会の努力で

以上の事業の内ABCが最重要事業として取上げられ、テレビは十月四日から放映、ラジオ、新聞も十月中に実施の方針を決定しました。

委員会の協議では慎重に審議すべきではあるが、一日も早く実行すべきでもあるというジレンマの中で苦慮しました。業者の目と視聴者の目の違いも考えると、未経験の私達には実に難かしい問題でした。ただ私達が木材に對し最も自信を持ってPRすべき点、木材は人間の健康に最適な建築資材であること、木材

は地震等の災害に対して強い建築資材であることを重点にPRすべきであるという委員の意見が絶えず貫かれたと言うことができそうです。

前述のように広報宣伝の事業は今日実施し、明日に効果が現われるものではありません。県内業者の中には建築資材としての木材のPRの必要性を必ずしも直接には感じない方もあろうかと思えます。しかし木材の消費促進こそ現在の業界不況脱却の最大の課題であるとするならば、木材消費の内でも大きなウェイトを持つ、建築資材としての、木材のPRをまず取り上げることも止むを得ないと思えます。永い歴史と伝統をもつ私達木材製材業界の浮沈を問われている昨今、業界として打つべき手を打ちながら不況克服に邁進したいと思えます。

◆ 今後の事業は決して一委員会の努力で

達成できるものではありません。どうぞ全県下の木材業者各位のお知恵をお貸し下さい。PRの結果として生まれてくるであろう問題点も数多く、その処理解決も極めて難かしいと思えます。しかしながら私達の道は私達の手で切り開かなければなりません。今こそ業界の総力を挙げて自らの活路を切り開こうではありませんか。

これまでの委員会の概要

- ▼ 第一回委員会(九月三日)
 - 収支予算案、事業計画案の検討。
- ▼ 第二回委員会(九月十三日)
 - 収支予算、事業計画案の再検討。テレビCMフィルム案の検討。
- ▼ 第三回委員会(九月二十日)
 - CMソング(餉試聴、検討)。
- ▼ 第四回委員会(九月三十日)
 - テレビCMフィルムの試写。

- 4・19 第一回企画運営委員会(小沢委員長)
- PR事業の推進案を審議。
- 4・27 第一回組合長会議
- 小沢企画運営委員長が、二千万円の事業計画案を口答で答申。協議の結果、具體的推進案の審議を要請。
- 6・10 第二回企画運営委員会
- 資金提出方法、使途を審議。
- 6・29 第二回組合長会議
- 資金の使途、割当案等を文書で答申。細部の検討要請。
- 7・8 第三回企画運営委員会
- 事業案、予算案の細部審議
- 8・5 第三回組合長会議
- 事業計画、収支予算を追申原案と折り決議。
- 9・3 第一回木材広報宣伝専門小委員会
- 9・13 第二回木材広報宣伝専門小委員会
- 9・14 臨時総会
- 理事五五名(含委任状)出席し、原案と折り決議。
- 9・20 第三回木材広報宣伝専門小委員会

9・30 第四回木材広報宣伝専門小委員会(U)

復刊によせて

静岡県木材協同組合連合会
常務理事 菅沼 三代司

最近の紙上を見ると、各地において木材需要の拡大をメーンとした決起大会が開催されている。それも今までの業者大会とは異なり、林業経営者とは異なり、建築業界の分野まで含めた幅広い木材関連団体の合同大会となっている。日本人と鉢巻きは、気合をいれる伝統的なスタイルであるだけに、大会スローガンを持った鉢巻群のシュプレヒコ

ルをどのように流しても全国的な木造指向率を五十%以下にすることはできなかった。この時こそ、云々を言わず、私たちが木の良さを普及すべきだろう。胎動をはじめたPR事業が支流に止まらず、本流となり滔々として木材の需要拡大を叫び続けようではないか。今度、「広報もくれん」を復刊することとしたが、PR資金の活用は、一刻千金の故事成語のならばのごとく、早期な開始こそ大切と思い、皆

単協通信



御殿場木協「木を知る会」

御殿場木協(渡辺俊行理事長)は、九月四日御殿場市林業会館に林業、製材経営者をはじめ、建築士、建設業者と連携し、「木を知る会」を開催した。



この催事は、御殿場木協・企画調査研究部会(声沢圭逸部会長)の企画発案により、実施に移された。(事務局・木村順一氏談) 会場には、沼津営林署長、地元市議会議員など来賓、関係者をおよそ一四〇名が参集し、三時間にわたり真摯にセーブル商品である木材の見直しに取り組んだ。講師。(財)日本住宅・木材技術センター理事長 上村武氏 演題 「木材の良さ」 元日本木青連会長 影山弥太郎氏 演題 「木材の気心」 (声沢圭逸企画部会長談) 今回のような地元建築士会、森林組合、行政を巻き込んだ

木青連はいま……

木青連(太田幸作会長)は、八月、九月定例幹事会にあわせ、県木連主催の研修会、林業後継者との交談会を実施した。八月七日には、豊岡村総合センターに、会員七十名が参加し、前静岡県建築事務所協会々長高木滋生氏を招き、現代建築の動向と木材界をテーマに、研修会を開催。講師の高木氏は、アメリカ建築研修旅行のスライド放映を交え、「地方の時代」、戦後世代は人間性の回復を指向しており、その意味で木材界にとっては、好機である。また、木造住宅の良さは、技術者を含めた総合企画にある。と一時間半にわたり熱弁した。(講演内容ご希望の方は、県木連までご連絡下さい。)



10~11月行事日程

- (全 国)
 - 10・11~12 全国青樹祭 長野県八ヶ岳高原
 - 10・20~21 林災協大会 群馬県
 - 10・26 全木連関東支部大会 千葉県鴨川市
 - 10・29 東海六県木材トップ年次大会 群馬県
 - 10・29 全木協・全木連理事会、臨時総会 東京都
 - 11・12 全国木材業者大会 東京都
 - 11・14 日本木青連関東地区協議大会 静岡県けんみんテレビ会館
- (県)
 - 10・4 労基法35周年、安衛法10周年記念大会 富士文化センター
 - 10・14 県社会福祉大会 静岡市民文化会館
 - 10・20~21 県林業経営協議会研修視察 和歌山県
 - 10・30~31 静岡産業祭り (リモコンチェーンソー実演会) 静岡産業館
 - 11・6~7 磐田産業祭り (リモコンチェーンソー実演会) 磐田文化会館
 - (県木連)
 - 10・5 組合長会議並びに被共済者代表会議 静岡市クーパー
 - 10・8 「木の日」決起大会 静岡市日本生命ビル
 - 10・8~9 目立講習会 土肥町
 - 10・13 県木青連10月定例幹事会 静岡市
 - 10・14~16 秋田林業地視察(林業技術者協会) 秋田県
 - 10・19 木造住宅相談員育成研修会 静岡市県木連
 - 10・26 第4回流通消費改善対策研究会 静岡市県木連

リーダーの顔

第1回 庵原木材協同組合 井出 稔理事長

「和」を重視するヤング組合長

今春の総会で理事長に選任された、井出理事長の訪問記。

Q 組合の概況は?

A 東庵木協のオカライト工場停止に示されるように、厳しさは当然としても、傘下組合員は淡々と商っているようにみえる。

Q 組合運営のモットーは?

A 多くの組合員が代替りの時期に来ており、今回のPR事業の募金も役員の協力でスムーズに進



Q 自社の経営は?

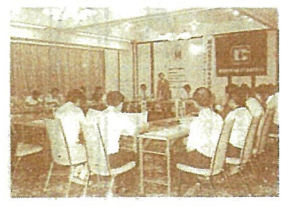
A 十二名の工場従業員で、内地材六割、米マツ中心に外材を四割、八百強製材し、地場の大工・工務店に販売。外材規格品の製品仕入れと内地材小径木処理の両面挽きバンドソウ導入など、内地材の製材に重点を移行中。

Q 清水の港湾製材と、富士の消費地の間にありながら、こやかに語る温厚な社長と健全経営がクブツて見える。

(M)

もともと、ゲク、木槌などの貨挽き工場としてスタートし、製函(特産・桜エビの箱)を経て現二代目社長に。従業員の高令化はあるものの、年賞与三回支給という労働一体となった生産体制。今春大卒の三代目継一氏も社業

Q 多くの組合員が代替りの時期に来ており、今回のPR事業の募金も役員の協力でスムーズに進



陽割れ、色落ちから製品を守る!

ネオ・ビニロン、ネオ・エステルシート

ご用命は各木協、県木連へ!!